

第 1 回 茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

議題	(1) 平成 29 年度実施 協働推進事業 実施報告会 (2) 平成 29 年度実施 市民活動げんき基金補助事業実施報告会
日時	平成 30 年 6 月 3 日 (日) 9 時 00 分から 17 時 10 分
場所	市役所本庁舎 4 階会議室 2 ~ 5
出席者氏名	草野正弘 椎野典子 秦野拓也 伊藤隆 大江守之 中川久美子 水島修一 三觜健一 事務局 5 名 (市民自治推進課) 石井協働推進担当課長 前田課長補佐 遠藤副主査 小坂主任 勝山主事
欠席者	西野義一 森祐一郎 北川哲也 高橋準治 石田貴一
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	延べ 90 名

○大江委員長

皆さま、こんにちは。

ただいま、ご紹介頂きました市民活動推進委員会委員長の大江でございます。

委員を代表いたしまして、ごあいさつ申し上げます。

茅ヶ崎市で実施しております市民活動団体への支援事業の主なものには、「市民活動げんき基金補助事業」と「協働推進事業」の二つがございます。

この後、ご報告いただく「市民活動げんき基金補助事業」は、市民活動を推進するための環境を整備し、市民活動の活性化を図ることにより、活力あふれる地域社会の実現を目指すことを目的として、平成17年度から実施している事業でございます。

今年度の報告事業を合わせますと、これまで120もの事業に財政的支援をしてまいりました。

本日は、平成29年度に市民活動げんき基金から助成を受けた12団体の皆さんに、事業の成果をご報告いただきます。

発表にあたりましては、実際の活動状況や今後の活動の発展に向けた意気込みなども織り交ぜながら、限られた時間の中で、会場の皆様にも分かりやすくご説明いただきたいと思います。

我々委員は、事前にいただいた実績報告書や事業に関する資料と、皆さまからの発表を聞いた上で、今後の活動の発展に向けてお役に立てるよう、また市民活動を推進する立場から、質問やコメントをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

引き続き市民活動推進委員をご紹介申し上げます。草野（くさの）委員でございます。椎野（しいの）委員でございます。秦野（はだの）委員でございます。伊藤（いとう）委員でございます。水島（みずしま）委員でございます。三觜（みつはし）委員でございます。中川（なかがわ）副委員長でございます。

以上の委員がAグループBグループに分かれて報告会を進めてまいります。

また、本日は、服部市長にもご同席いただいております。

私からは以上です。

よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

続きまして、服部市長よりご挨拶申し上げます。

市長挨拶

○服部市長

改めまして、皆様こんにちは。ご紹介いただきました市長の服部でございます。

きょうは、日曜日の午後、貴重な時間をご調整いただきまして、げんき基金補助事業

の実施報告会ということでご参加をいただきまして、ありがとうございます。

きょうご報告いただく団体の皆様、スタート支援を受けていただいた10団体の皆様、そして、ステップアップ支援を受けていただいた3団体の皆様、13団体の皆様方に、それぞれ活動の内容をご報告いただきます。このげんき基金を活用して、それぞれの団体で今まで行ってきた事業を、さらに幅を広めていただく、そして、レベルを、ステップを上げていただく、そういったことにこの基金を使っていただきました。

皆様、1年間の中でいろいろな工夫を凝らしていただきながらご対応いただいたんだと思っております。きょう、ここでまたご報告をいただくことで、さらに一層それぞれの団体の活動を充実することにつながっていただく、それがきょうの報告会の非常に大きな目的でございます。ぜひとも、他団体の発表も含めましてお聞きいただく中で、今後の活動の充実につながっていただきたいと思っております。

そして、皆様もこの基金を使っていただいて感じてもらったと思うんですが、この基金は、市民の皆様、個人の方、団体の方、そして企業の皆様から寄附金をいただき、それに見合った額を行政も基金に積み立てて、そしてそれを原資に皆様の活動支援をさせていただいている大事な基金でございます。ぜひとも、きょうの報告を受け、その後、今後の市民生活をする中で、こうした基金があることについても、団体の皆様、そして周りの方々にもお伝えいただいて、ぜひ活用いただくことと、そしてまた、よろしければ寄附金をいただくこと、そういったことにつながっていただければ幸いです。

それでは、きょう、貴重な時間です。皆様で有効に活用していただいて、今後の活動へつなげていただくことを重ねてお願い申し上げまして、私からのご挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。（拍手）

それでは、本日の流れを簡単に御説明申し上げます。冊子の1ページをご覧ください。

本日は、市民活動げんき基金補助事業スタート支援事業10事業、ステップアップ支援3事業、合わせて全13事業の報告を予定しております。

報告につきましては、1事業につき7分を予定しております。報告者の方は、時間内に報告が収まるよう、ご協力ください。

報告の時間管理について申し上げます。

終了1分前、6分経過したところで、一度、お声がけします。

7分経過した時点で、再度、お声がけします。

報告者の方は、速やかにまとめてください。

1年間の成果を7分でまとめることは大変なこととは思いますが、円滑な進行にご協力いただきますようお願いいたします。

報告が終わりましたら、市民活動推進委員会委員から質問やアドバイスなどを頂きます。

こちらは6分以内を予定しています。

質疑の途中で、ベルが鳴りましたら、その質疑を最後の質疑とさせていただきます。質問される委員及び回答なさる団体の皆様には、できるだけ簡潔明瞭なやりとりをお願いしたいと思います。

なお、昨年度は、多くの市民活動団体の皆さまに事業を実施していただき増したので、この報告は、Aグループ、Bグループに分かれて、同時進行させていただきます。冊子1ページ、下部にごさいますげんき基金補助事業の内、発表時間の右側にAやBの表示があるとおもいます。

この表示をご確認いただき、Aと表示のある方は、こちらのテーブルで、Bと表示のある方は、奥のテーブルで進行します。該当する団体の方は、ご自分の団体の発表の前までに、テーブル近くのお席へのご移動下さい。

また、ご来場の皆さまにおかれましても、ご興味のある報告ごとに、お席の移動をお願いします。

本日、急遽エルマーさまのご担当者さまからご連絡をいただきまして、発表予定の方が体調不良ということで、欠席させてほしいと連絡を受けました。エルマーさまには他の日程で報告させていただくことにします。A テーブルは繰り上げて進行していきたいと考えていますので、お願いします。

1 2 団体の質疑応答が終了した後、講評、全体での意見交換を行いますので、各団体のみなさまは、ご自身の報告が終了した後も、ご退出なさらないようお願い申し上げます。

実施報告会の終了は、16時45分ごろを予定しております。

なお、報告会の様子は、写真撮影をし、ホームページや広報紙、等に活用させていただきます場合がございます。

また、実施団体のみなさまからも、活動のPR目的のために写真撮影をすることがございます。予め御了承いただきますようお願いいたします。

この補助事業の原資となっております「市民活動げんき基金」は、市民の方々や事業者さまからの善意の寄付金と、寄付額と同額を茅ヶ崎市も積み立てるマッチングギフト方式という方法で積み立て、運営されております。

昨年度より、梅田小学校の向かいにあります茅ヶ崎市体育館に設置された、「湘南ヤクルト販売(株)様」の自動販売機、及び、小和田公民館、鶴嶺東コミセンに設置されてございます「ダイドードリンコ(株)」様の自動販売機の売上げの一部を、このげんき基金にご寄付いただいております。

また、受付に、補助金の原資となりました市民活動げんき基金の募金箱を用意しております。ご来場の皆様も、制度の趣旨にご賛同いただき、ご協力いただければ幸いです。

それでは、報告会を進めてまいります。

まず、Aテーブルで、「emb 様」、Bテーブルで「どんぐりさんの木育ひろば様」からのご報告です。準備をお願いします。

このあと、進行はグループごとに進めてまいります。会場での移動は自由でございますので、目安となる発表時間をご確認いただき、ご興味に応じて傍聴いただければ幸いです。

ご準備はよろしいでしょうか。

よろしく願いいたします。

げんき基金Aグループ発表

○佐藤（emb（エンブ））

よろしく願いいたします。市民活動団体embの、私、佐藤と申します。本日、代表の若松が欠席で、かわりに私が報告させていただきます。

本年度の平成29年度、emb（エンブ）の活動としては、介護施設などの訪問施術活動及び市の主宰のおまつりイベントなどでの市民皆様への施術を通して、改めてご自分の体を意識するきっかけづくりと、あとは、私どもの団体のPR活動と体と環境にやさしい石けんの販売や、石けんづくりのワークショップなどを開催いたしました。

介護施設訪問に関しては、昨年度7月15日にデイケアのほうに施設訪問させていただいて、デイケアの利用者様12名ほどに、足指やボランティアマッサージをさせていただく機会をつくらせていただきました。定期的に訪問しているという施設ではないため、その際は施設の職員の方々と事前打ち合わせ、利用者様に合わせた施術ができるよう対応させていただきました。

スタッフの方のご協力のもとで施術を行わせていただきましたが、実際のケアの提供をさせていただくと、受けていただいた利用者様のほとんどが、マッサージ中にうとうとと眠られる様子もあって、私どものやっていたタッチケアの効果を実際の活動を通して感じることができましたし、実際にその効果を利用者様にも感じていただいたのかなと思っています。

また、同様に、10月29日には、デイケアと保育園の複合施設のおまつりという形で訪問させていただき、イベントの来場者や施設のスタッフの方々、この日は台風の影響もあつたりして、来場者様が少なかつたため、5名ほどになりましたけれども、施術をさせていただきました。その際、おまつりでしたので、ビンゴ景品等で、こちらの団体で作製しております台所石けん等を提供させていただくことができました。

介護施設を訪問する個人の方の団体などは、たいがいボランティアで訪問されている方々の団体がほとんどであるので、私どもは当初有償でという立ち位置をとっていたため、有償での施術は利用してもらいにくいことをそこでは改めて感じた次第です。

ただ、その中で施術そのものというのは有効であるということも感じられたため、今後の活動において、どのような形で、長く私どもの活動を提供していくことができるかを

考えるきっかけにはなっただと思います。

また、この際に、先ほどお話しした景品で提供した手作り石けんが好評で、体によいものと思う来場者様というか、皆様の意識というのをその場で感じることもできました。

施術を通してなんですけれども、このような介護施設等においては、実際の利用者様をケアするスタッフの方々というのがとても多忙であって、そういう方々を対象にして施術を提供して、その方々が元気になっていただければ、さらに提供するケアが良質なものになっていくのかもしれないとか、そういうところを考えたんですけれども、なかなか実働が多忙な中では施術を受けるような場面にならない。そのスタッフの方々も、お互い、自分だけが受けるわけにはという遠慮もあったりするというような状況を少しかい見たところもありまして、疲弊しがちなスタッフの方々へどのような形で介入していくべきかということは、今後、活動の中で考えていくことができればいいなと思っています。

あとは、今回は、茅ヶ崎市主催のおまつりイベントなどにおいてPR活動を兼ねた施術イベントにも参加しています。春の市民まつり、秋の市民ふれあいまつりに参加させていただきました。おまつりの来場者を対象として、春は17名ほど、秋は6名ほどの方々に施術を実際に受けていただきながら、団体のPR活動を行いました。

来場者様に関しては、就学前のお子様を連れたママさん世代の方が多かったように思います。施術を受けていただくかたわらで、石けん粘土というもののワークショップを同時並行で行いまして、お子さんは粘土で遊び、お母様は施術を受けていただくという形で提供できたことはすごくよかったなど、実際に提供しながら思っています。

また、団体の立ち上げ初年度として、市民の皆様にも私どもemb（エンブ）という団体があることを知っていただけたらという思いがあつておまつりのほうには参加させていただいたんですけれども、他団体様との交流であつたりとか、出展した際に周りの団体様の動きだとか、盛り上げ方などを見させていただくことで、とても学ぶ機会が多くありました。今年度も市民の皆様が気軽に立ち寄ることができるような機会があれば、参加していきたいと思っております。

また、8月、子どもたちが夏休みの期間において、市内のカフェにて夏休み中の親子を対象としたマッサージ教室を開催しました。その際にも参加者が少なく、親子2名、1組の参加でした。少しのことでこんなにも体が楽になることをお伝えしつつ、親子のスキップのきっかけづくりや、コミュニケーション手段の一つとなるように、トリートメントの手技を紹介させていただきました。実際にパパにやってあげたいねという親子の会話であつたり、家族のコミュニケーションを深めるためのツールの一つとしてご提案できたのではないかと思います。

同様に、8月18日にも、まちスポ茅ヶ崎において、ママ層に向けたイベントを開催しております。この際も、石けん粘土のワークショップに並行して開いたので、市民まつり同様、お母様は施術、子どもは粘土遊びという形で、ちょっとした時間で手軽に受けられさて、子どももちょっと離れて、お母様が自分だけの時間というのがなかなかとれない世代

だったりするのかなと思う中で、こういう活動がまたほかのお子様方を対象としているような団体様とコラボレーションしながらやっていけたらと思っています。

昨年度は1年目の活動だったので、トライ・アンド・エラーという形で、本当に日々日々検討だったんですけども、今年度はひとまず活動していく中で、自分たちで雑貨販売、施術活動を市民の皆様に通して提供していく中で、市民の皆様にも協力いただきながら、資金を集めつつ、ボランティアという形で施設活動につなげていくという運営を試みたいと思っています。まだまだ未熟な団体なので、まだまだトライ・アンド・エラーは続くと思うんですが、今年度も同様に頑張っていきたいと思っています。

げんき基金に関しては、団体パンフレット、通信費、あとは活動するにあたっての資源を購入させていただきまして、本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(拍手)

○大江委員長

それでは、どうぞご質問、コメントをお願いします。

○水島委員

せっかくの取り組みなので、もっとたくさんの方が分散化されるといいなと思っていました。確かに、今、お話の中にあっただんですが、介護関係というのはわりとボランティア的に行かれる方が非常に多いので、出向かれても、どうしてもそういうイメージを持たれがちなのかなと思います。施術をやっていただくときに、全くオープンな状態でやるのか、少し見えないようにするとか、何か受けやすいような状態を確保するために何か工夫とかはされているんですか。

○佐藤（emb（エンブ））

介護施設等に関しては、時間帯的なものもあるので、皆様が集合したような場所にそのまま出向いてという形になるので、実際にどこか個室的なところ、ついたてがあれば、そこにお呼びしてという形よりかは、椅子に皆様座っていられるところに訪問するということが、施設に関しては、今回の症例というか、行っている件数が少ないので比較ができないんですけども、今回はそういう場所で施術することになるんだなというのがひとつ学びだったので、もう少しそのようなプライバシーみたいな配慮というのも大切にしたい部分ではあるなと思います。

○水島委員

一般のほかのケースのほうはどうですか。

○佐藤（emb（エンブ））

一般の方々向けになったときには、なるべくついでたてがあるところ、陰になるところを選ぶんですけども、市民まつりとかですとどうしてもオープンスペースというか、おまつりは外の空間になってしまうので、限界はどうしてもあって、なるべく人目につかないテントの裏側、あとは、ちょっと布を広げて、なるべく陰になるようなところということまではできるんですけども、角度を変えれば見えてしまうというのが、もしかしたら、ちょっと見られては嫌だなという方にとってはハードルがあるのかなと思います。

○椎野委員

難しいですね。今、せっかく出たので、お話は同じように関係性を持つんですが、あそこのワイワイまつり、私も行って見たんですけども、ああいうふうにオープンなところは、意外とそういうのを承知して出て行くんですよ。だから、見られて気持ちがいいというのを相手に見せて、ああ、気持ちいいんだ、私もやってもらおうかなという効果もあるんですよ。だから、今、プライバシー、プライバシーとおっしゃいますけれども、その辺もオープンでいいのかなと私は個人的に、うちのほうでもやっている団体さんがいらっしゃるんで、そんなふうに思いました。

それから、先ほど、ここは子どもさんを対象とした団体さんにもうちょっと働きかけてやってみたいということをおっしゃっていましたが、若いママが対象でやりたいという目標、目的ですか。

○佐藤（emb（エンブ））

そうです。施術、お子様もまれには受けたいという方ももちろんあるんですけども、やはり施術を受けたいと思われるのは、どちらかというと大人になってくるので、そうすると、お母様方が対象になるという形で一応考えていたんですけども。

○椎野委員

年齢関係なく、高齢者でもやりたい方というのはオープンにももちろんおやりになるわけですよ。

○佐藤（emb（エンブ））

もちろんです。

○椎野委員

そうですね。

○大江委員長

ほかは。

○草野委員

今後の展開の中で、小さいお子さんがいる親御さんをつながりを持ちたいとか、ほかの親子さんとの活動を一緒にしたいとかということが述べられていますけれども、その方法とか、知る方法とか、その辺はめどが立っているということによろしいですか。

○佐藤（emb（エンブ））

一応、どういう団体さんがあるか。社協とか、あとは、市民活動以外でも、意外と個人でお母様向けに何かをやりたいという活動を結構地道にされていらっしゃる方というのはいらっしゃるので、そのような方々に声をかけつつ、さらに、団体として一緒にすることでその規模を大きくしたり、対象者の間口を広げていけたらいいのかなというふうには、ちょっとまだ具体的なレベルまで落とせていないんですけれども、考えています。

○草野委員

わかりました。

○大江委員長

あとどれぐらいですか。

○事務局

今、4分50秒になります。

○大江委員長

あと1分10秒ぐらいで。

○椎野委員

手作り石けんの材料代というのがありますよね。ここに計上されていますけれども、お子さんがお母様がおやりになっているときに、お子さんはそばで有料でやっているんですか、無料ですか。

○佐藤（emb（エンブ））

それはイベントによって少しやり方を変えてみたりしたんです。最初は有償でした。500円ほど、実際に子どもを見守るといふ部分とあわせて、ワンコインいただくかという形にもしたんですけれども、お子さんでもそれに参加されないお子さんもいたり、いろいろあったりして、遊び方も全然違ったりするので、次のときにはお金をいただかずに、そこがお子様の自由な遊び場。入ってもいいし、入らなくてもいいし、お母さんのそばに

いたい子もいるので、そこは別にして、こちらのげんき基金でいただいている材料費があるので、そこで賄った次第です。

○椎野委員

そうですね。わかりました。

○事務局

あと5秒で6分になります。

○大江委員長

では、ちょうど時間です。どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

よろしいでしょうか。では、進めさせていただきます。お願いします。

○山口（らしくる）

改めまして、らしくと申します。代表をしております山口と申します。よろしくお願いたします。

まず、「らしくる」という名前なんですけれども、「自分らしくある」ということで、この地域の中で一人一人が自分らしくいられるようにということで、テーマを持ってやっていきたいということで、特に2025年問題と言われてはいますが、75歳以上の後期高齢者の方が今、茅ヶ崎の中で3万人ぐらいと言われていたのが4万人ぐらいになるだろうということで、すごくふえてくるという中で、いわゆる市の制度に頼るのではなくて、市民同士が自分事としてアクションしながら解決していくというか、やっていこうということで、市民活動としてやっていきたいということで、そもそも始めた事業になります。

事業名のところに幾つかいろいろ書いてありますけれども、大きく「らしくるCAF E」というのと、「お父さんお帰りなさいパーティー」というのと、映画の自主上映会というのと、「介護から日本の未来を創るプロジェクト」、この4つ。かなり欲張ったんですけれども、初年度、試験的にいろいろやらせていただきたいということで申請をさせていただきました。

やっている中でいろいろと変化をしまして、実施内容の変更等の手続をさせていただいたりということで、いろいろやったんですけれども、大目に見ていただいて、そこも承認いただいて、結果としては進めることができたという状況になります。

具体的なところを少しお話をしていきたいと思いますが、45ページのところになります。「らしくるCAF E」と書いてあるところなんですけど、こちらは、もともと福祉関連の地域の課題から、我々として何ができるんだろうかという、ボランティアとかビジネス

の種を見出すワークショップを運営するという内容になります。

下の「議論のテーマ」のところに書いてあります。いろいろなテーマについて、とにかく興味がある方に集まっていただいて、何ができるんだろうかということで議論をしました。結果としては、我々としては、茅ヶ崎に住んでいる方々、特にシニアの方々は、元気な高齢者が非常に多いよねと。だから、その元気な方々からいろいろ学べることをやっていこうということで、50ページに写真があるんですけども、シニアの方々、イコール医療とか介護で支えられる人という認識が非常に強いと思うんですが、そうではなくて、地域の資源、「地域のレジェンド」と呼んでいるんですけども、そのような、いわゆる活躍してもらいたいというような、活躍の場をつくっていこうということで、我々現役世代が、誰しもがロールモデルになり得るということで、その方々の持っている特性だったりとか、活躍できるポイントみたいなものを探り出すみたいな活動をし始めました。

真ん中のところに「レジェンド探索隊」と書いてありますが、これが参加したメンバー9人ぐらいになりまして、結果としては7名以上の方にインタビューをするということが実現できました。

50ページ一番下のところに書いてありますが、まちのレジェンドに共通することということで、今を楽しんでいるとか、人に対して受容性が高い。柔軟であるとか、チャレンジする気持ちがあるとか、人に対して貢献をしたい、感謝の気持ちを忘れていないとかというのが、結果として人生を楽しむ秘訣なのかなということに気づかされたりとか、そういうことの共有をするということができたかなと思っています。

2つ目が「お父さんお帰りのパーティー」ということで、45ページの真ん中ぐらいに書いてありますが、これはもともとそういう名前で作ろうと思っていたんですが、今の活動の中から、茅ヶ崎で活躍されている方がどんどん見つけてきたので、その方々の活躍の場というか、発表する場にしていきたいということで、茅ヶ崎の方々をお招きした「ちがさき100PARTY（ワンハンドレッドパーティー）」というイベントを実施する形に変更いたしました。

これは、51ページに写真がありますが、80代の杉村とか、60代の有福さんとか、40年代代表で私がということで、3人によるプレゼンテーションや、げんき基金の寄附をしていただいている西さんにも参加いただいて、歌声喫茶を披露していただいたりということで、盛り上がるようなイベントを実施することができました。

3点目。映画の自主上映会についてなんですけれども、46ページに書いてありますが、『つむぐもの』という映画を実施しました。これは、簡単に映画の内容を申し上げますと、いわゆる介護になってしまう和紙の職人の方がいらっしゃるんですけども、和紙職人の方が、普通の介護だと介護施設にとどまってしまうと何もできなくなっちゃうんですけども、韓国から来る、ちょっと型破りな介護士の方によって、和紙を一緒につくっていこうよという活動を最後までやり遂げるみたいなことをやったほうが人生楽しくない？みたいなことがメッセージとしてありまして、その映画を見ながら、実際に監督にも来てもらっ

て、裏話をしてもらったりとか、その後、ワークショップをやって、それぞれが自分らしく生きていくためにはどんなことが必要なんだろうか、みたいなことをみんなで議論をするというワークをするということができました。

最後の「介護から日本の未来を創るプロジェクト」ということなんですが、こういった活動の中からビジネスにつながるような種を見つけたいということで活動してまいりましたが、1年目というところもありまして、なかなかそこまでは正直至らなかったというところはあります。まちの保健室みたいなものをつくりたいなみたいなイメージはあったんですが、まだまだそこまでの資源が集まるというところまでは至らず、一旦、私の中の5分100円で何でもやりますという活動をやりまして、地域の中で必要とされるお助けマンということで、53ページにもありますが、例えば、スマートフォンの活用の仕方を美波サロンという高齢者団体のところに私のほうで活用講座をさせていただいたりとか、あとは、屋根の上に登って、落ち葉がたまっているところを確認したりとか、パソコンの使い方を、PCとプリンタの接続の修理というか、そういったことをやらせていただいたりということで、いろいろやらせていただきました。

結果、いろいろやらせていただいたんですが、トータルで223名の方との接点を持つことができたということが1つの成果であり、継続していけるという事業が幾つか自分の中では見えてきたというのが成果かなと思っています。

今回、げんき基金を活用させていただく中で、1つ自分が広報するというところが難しいところだったんですが、市の力を活用させていただいて、広報力を使って、いろいろなところに周知ができたということと、あとは、市の信用というか、私が1人で活動するより、市のバックアップがあるげんき基金があるということが、私としてはすごく心強かったというところになります。

あとは、小坂さんにも大変お世話になりましたし、サポセンの益永さんをはじめ、皆さんに大変ご協力いただいて、何とか終えることができた1年かなと思います。

以上になります。ありがとうございました。（拍手）

○大江委員長

それでは、どうぞ。

○草野委員

盛りだくさんの施策、それによって参加人数がたくさんいるということで、大変苦労されていて、その結果として人数がたくさん集まったんだろうと思っています。ほかの団体さんなんかを見ると、参加人数が少ないとか、そういうところですごく困っている部分があるんですね。この団体の場合にはすごく人数が集まっているということで、集められたノウハウみたいなものはありますか。こうすればいっぱい来ますよ、だとか、あれしますよという。

○山口（らしくる）

1つは、私が1人で発信していてもなかなかというのもあったので、コワーキングスペース「チガラボ」というところがありまして、そこが1つのコミュニティ、現役世代の会社員のメンバーが多いんですけれども、そういった場所があったので、そこは私もともとメンバーであるということもあったんですが、そのメンバーを通じて周知することによって、その友達の友達にまた広がっていくというような形で、特にSNSを活用したりということによって広げることができたというのが1つあります。

もう一つは、先ほども申し上げたような市の広報紙を活用させていただいたというのが非常に大きいかなと思っていて、そちらでのチラシ配りだったりというのが非常に有効的だったなと思っています。

あとは、そのチラシをいろいろなところに配架をさせていただいたりということで、サポセンをはじめ、まちづくりスポットだったりとか、そういったところに置いていただいて周知をいただいたというところの連携ができたというところだと思っています。

○草野委員

ありがとうございます。

○水島委員

よくいろいろな取り組みは、わりと地域限定っぽくなることも結構多いんですが、今回、参加者もかなり多いんですが、エリア的な特徴的なものがあるのかどうかということと、要は、全市的な取り組みになっているのか、ある程度活動領域のところが中心なのかというのが1つと、あと、46ページで非常にバラエティに富んだ取り組みをされていると思って、今、伺っていたんですが、特に手応えがあったといいますか、今後こういうことをしていきたいとかと感じるようなものがあったら、少し説明はいただいているんですが、少し具体的にお話ししたいと思うんですが。

○山口（らしくる）

ありがとうございます。

1点目が、ごめんなさい。

○水島委員

エリア的な。

○山口（らしくる）

エリア的な話は、例えば、5分100円で何でもやります、みたいな活動は、自分がエリ

アを絞らないと手が追いつかなくなるというのがあったので、海岸地域、南側のほうに絞ってやりました。関係が深くなる中で、初めてご依頼をいただけるという形になれたのかなと思っています。逆に、映画の上映会は、とにかく拡散したいと思ったので、全エリアを意識した周知活動を行った形ではあるかなと。なので、内容によって、その辺は自分の動き方も少し変えてやってみたというところはあります。

○水島委員

もう一つは、幾つかの取り組みの中で、それぞれ非常に効果的だったとか、いろいろ感じたところがあると思うんですが、次にこういうものにつなげていきたいとか、何か特に感じるような事業がもしありましたら、お話をいただけますか。

○山口（らしくる）

1つは「らしくるCAFE」というところに書いてあるんですが、ワークショップをやる中からチームメンバーができ上がりまして、「CHIGASAKI100CLUB」という名称をつけてやっているんですけども、これが今、多分午前中に話があった湘南スタイルさんと一緒に連携して何かできるんじゃない？という話もありまして、神奈川の「ボランティア基金21」のほうから、今年度、予算をつけて一緒にやろうよという取り組みに発展をしようとしているところでもあります。なので、今回のげんき基金は、ややこしくなってしまうので、一旦、申請することはやめて、そちらのほうと一緒にプロジェクトとしてこれからまた進めていければなと思いますので、そんな形でまた発展していければなと思っています。

○水島委員

ありがとうございました。

○椎野委員

なかなかおもしろいですよね。人生100年代というので、一番マッチしていろいろなこととお考えになっているというのはすごく感じたんですけども、どれもこれも聞いてみたいんですが、まず1つ、「お父さんお帰りなさいパーティー」がありますよね。これをおやりになったときに、「100PARTY」ということで、この中で40代と60代と80代の代表の方にお話を伺ったというんですが、年代ごとにその持っている、これから100年時代、100歳時代になるときに、どういう意見の違いがあるのか。40代だと何を思っていて、その年代別なのをお聞かせいただけますか。

○山口（らしくる）

80代の方からいくと、80代の方は、それこそ簡単な話をすると、自分で最後までトイ

レに行って、いわゆる生涯現役で、自分のことは自分でやりたいという気持ちがすごく強いというのと、自分が今まで培ってきたものを何か貢献したいという意欲がすごく高いなと思いました。

60代の方は、一旦、いわゆる現役世代というものから、セカンドキャリアに向かって、自分が今まで培ってきたものをどう還元していこうかということに模索をされているタイミングなのかと感じました。その中で自分なりの味というのを出していきたいという意欲がすごくあるなと思いました。

40代の我々は、特に「人生100年時代」と言われる中で、今、会社勤めだけをやっていればいいのだろうかという疑問とともに、社会参加、地域への参加というものを、早いタイミングでどうやったら関わっていくことができるのかというところに興味があったり、その両立をどうしたらうまくいくのかということに興味があるのかなと思っています。

○椎野委員

ありがとうございました。

○大江委員長

ちょうど時間です。どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

それでは、お願いいたします。

○中村（Home home Home）

Home home Homeの中村と申します。よろしく申し上げます。

まず、「親子で踊ろう！食育体操教室！」という事業をさせていただきました。目的としては、体操を通して体を健康にすること、また、食を通じて親子の日常に感謝し合うきっかけをふやしていきたいということで活動をしていきました。

今年度、げんき基金で行った活動は、体操教室なんですけれども、それと一緒に体操をPRするためのミュージックビデオの制作と配布、あと、PR活動を行いました。

まず、ミュージックビデオの制作ということでつくったミュージックビデオを少し見ていただけたらなと思います。

（ビデオ放映）

途中なんですけど、このような形のミュージックビデオを作成いたしました。

もともと今の体操はつくっておまして、プロの方に、全身の筋肉を動かせるようにというアドバイスをいただいてつくったんですけれども、練習をしたりですとか、いろいろな施設に広げていきたいなということで、こちらの補助事業を活用させていただきました、ミュージックビデオをつくらせていただきました。

それと、食育体操教室を実施いたしましたので、そちらの様子をご紹介させていただきますと思います。

まず、夏休みにやりました、親子料理教室とあわせました体操教室になります。こちらは、先ほどの歌に登場しましたイメージキャラクター、みかんの「みかうえる」と、トマトの「ほめと」がいるんですけれども、そちらのキャラクターにも関係するような準備をしました。歌の中で「ほめと」は、ほっぺに傷を負いながらも大きく育って頑張っ大きくなったんだよというような歌なんですけれども、「訳ありトマトで作ろう！ワンプレートランチ！」ということで、家で育てたトマトを持ち寄っていただいて料理教室をしました。

牛乳パックで電車型押し寿司を作ろうということで、こちらは体操には関係はないんですけれども、楽しめる活動として行いました。これとあわせて体操をしました。こちらが調理をしている様子になります。

トマトを煮込んでソースをつかって、ご飯に沿えて料理をしました。栄養バランスを考えてお野菜も使った料理にしております。

こちらが電車押し寿司教室ということで、男の子も体操に興味を持つきっかけとなってもらえるように、電車型のお寿司づくりということでやりました。

こちらもお野菜を使って、ほうれん草とシャケとシラスを使って、これは一応上野ー東京ラインをイメージしたお寿司になっています。

続いて、2つ目の事業が冬休みにやりました、先ほどのみかんのキャラクターに合わせて、みかんのデザートづくりをやりました。それと食育体操教室を合わせました。

こちらは、無農薬のみかん農家さんとコラボレーションしまして、無農薬の斑点ですとか傷のあるようなみかんを使わせていただきました。

左が、みかん丸ごと、皮をむいて入れた大福で、右が寒天ゼリーになっております。

みかんの周りに白あんをつけて丸めている様子です。

みかんジュースを白玉粉を混ぜてお餅をつくっています。

こちらはちょっと見づらいんですけれども、農家さんに実際に来ていただきまして、育てているときにどんな苦労があるかなというお話もしていただきました。

こちらは「ちがさきサポセン☆ワイワイまつり」のほうで、食育体操教室をステージの上でやらせていただいた様子です。

こちらが、市役所の1階のスペースで「ちがさき食育フェスタ」のほうに参加させていただいた様子になります。

最後に、こちらがDVD制作したものになります。こちらの配布のほうが100部、予算としてつくったんですけれども、まだ完全に終了しておりませんので、これからPRを進めていきたいと思っております。

今回、活動した一番の成果は、いろいろなPRをして、いろいろな方々とのつながりを持たせたことかなと思っております。配布先も松浪れいらに保育園さんですとか、松井歯科

医院さんですとか、ある程度確定しておりますし、保育園さんのほうでは食育体操教室をやる予定にもなっておりますので、引き続き、PRと同時に子どもたちの健康のために活動していきたいと思っております。

以上になります。ありがとうございました。（拍手）

○大江委員長

それでは、どうぞ。

○水島委員

お疲れさまでした。とても楽しいメニューで、調理とかもおもしろいなと思うんですが、少し残念だったのは、参加者が書かれていたと思いますが、少し少なかったかなという。本当にいいテーマだったのに残念だったような気がいたします。広報とかそういうPRというのは、どういうことをされたのかなというのが1点目なんですが、あともう一つは、もう少し小規模の、例えば、公民館とかコミュニティセンターとかというのが茅ヶ崎各地区でほとんどあるんですが、そういうようなところのイベントでやれるぐらいのレベルのものなんですが、規模的なものが広くなければいけないとか、もしそういうものでも参加できると、大変楽しい取り組みなのかなと思いました。

○中村（Home home Home）

ありがとうございます。広報の方法がちがさきサポートセンターさんに置かせていただいたりですとか、まちスポさんのところにチラシを置かせていただくのと、あとはSNSを通してさせていただきました。ただ、市の広報にげんき基金で載せていただくこともできたんですけども、いろいろ間に合っていなかったのが現実でしたので、もっと早くにPR活動をするのがこれからの一番の課題だなと。

○水島委員

たしか2カ月前ぐらいに言わないと間に合わないと思っておりますので。

○中村（Home home Home）

いろいろ中身を詰めてからのほうがいいかなと思って、いろいろ延びてしまったんですけども、詰めなくても、大雑把なものでもいいので、広報のほうにお知らせできたほうがよかったなという反省点があります。小規模のイベントはぜひやっていきたいと思っております。

○椎野委員

これは対象が親子で踊ろうということで、相手は親はいいんですが、幼児とか子ども、

小学生ぐらいですか。低学年とか。要するに、保育園とか幼稚園とか園児の親子を対象ですか。

○中村（Home home Home）

対象は、もともとこの体操自体を障害児向けにつくったところはあるんですけども、ただ、限定して行うことが難しいので、対象としては幼児と低学年を考えて行っています。

○椎野委員

それで、今ちょっとビデオを見せていただいたんですが、幼児が一緒だったら、文言がちょっと難しいんですよ。だから、対象者によって言葉というのは違ってくるので、本当に幼児の親子を対象にするならば、もっとかわいらしい、わかりやすい言葉で、簡単に踊れるようなこと。やっている趣旨は、親子料理教室でやりながら、子どもと心と健康でやりましょうという意味はわかるんですけども、そのところの対象がちょっと、だから先に伺ったんですが、ちょっとずれているような感じなので、もしまたこれからお作り直すか、文言を変えるかどうかはわかりませんが、本当にそういうことをしたいならば、ちょっとかわいらしくて、みんなが飛び込んでやってみたいなということであれば、幼稚園とか保育園にどんどん行って普及させると。せっかくつくっても、ただ置いてありますということで、お配りしましたといっても、かわいらしいものじゃないと、幼稚園も使わないでしょう。だから、必ずお昼の前にはそれをかけてみんなでやりましょう、みたいな感じになるような雰囲気でも普及をさせると、もっと、せっかくのげんき基金を使ってあれしたので、普及の度合いが広まるかなと思います。ちょっと研究してみてください。

○中村（Home home Home）

ありがとうございます。

○大江委員長

どうぞ。

○草野委員

先ほどの踊りを見て、孫と一緒に私が踊りたいなというぐらいに思ったんですよ。そういう意味では、今、どこかに配るとか何か言っていましたけれども、個人で欲しいなという要望にはお応えできるんでしょうか。

○中村（Home home Home）

はい。お応えしています。

○草野委員

それは、有料で、無料で。

○中村（Home home Home）

無料で。

○草野委員

わかりました。ありがとうございます。

○大江委員長

これはYou Tubeに載せたりとかは。

○中村（Home home Home）

You Tubeに歌詞がないものは今載せておるので、ゆくゆくは広めていきたいと思っています。

○大江委員長

あのキャラクターの着ぐるみのやつは、この予算ではなくて前からつくってあったんですか。

○中村（Home home Home）

そうです。これをやる前につくりました。

○椎野委員

食材にあれしているのは、地産地消ですか。無農薬というのにこだわってやって、いいことだからいいんですけれども、地産地消のものを素材として使うということでやっていらっしゃいますか。

○中村（Home home Home）

もともと地産地消というスタンスはなかったんですけれども、実際、料理教室をやってみまして、アンケートをとって、地産地消のものに興味があるというご家庭も、お子さんもおりましたので、今後は、料理教室のほうには、魚介類ですとか、地産地消ということで、茅ヶ崎の農産物を使っていきたいなと思っています。

○椎野委員

ありがとうございます。

○大江委員長

それでは、ありがとうございました。

○中村（Home home Home）

ありがとうございました。（拍手）

○事務局

30分まで休憩とさせていただきます。

（休 憩）

○事務局

お願いします。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

皆さん、こんにちは。快適な自転車環境支援、「走って、見て、感じて、茅ヶ崎の“まち”を考える」、ちがさきサイクルライフ研究会の原です。よろしくお願ひいたします。

私たちの活動の原点、人、自転車を優先したまちづくりを市民の視点で検討、研究し、自転車のまち茅ヶ崎を実現する活動を展開するというのが私たちの活動の原点です。そして、今回、げんき基金の関係で3つほどのイベントをやりましたので、それについてご報告いたします。

まず、第1回潮風散歩ツーリング実施。目的が「走って、見て、感じて、茅ヶ崎の“まち”を考える」。開催日が2017年7月21日金曜日。参加人員が12名。推進員というのは、自転車プラン推進員ですね。そして、行政の方が2名。サイクル研のメンバーが9名です。募集対象が商店連合会主催のツーリング参加者30名及び行政自転車プラン推進委員会にご案内をしました。ルートは高砂コミセン、サザン通り、浜見平、鳥井戸橋、北口駅前、西久保、一里塚、ツインウエーブ、ラチエン通り、若松町、鉄砲道、南口駅前、高砂コミセン。

成果として、ナビ自転車専用通行帯び、矢羽根体験、狭い道路の左走行の安全性、歩道の違法自転車走行の実態等から、道路環境整備の重要性が認識できました。

これが事前説明の様子です。このような形で走ってきました。

ツーリング後の意見交換会です。この中で、参加者の感想として、初体験の方は、道路の実態が理解できて、改善点が見えた。ツーリングの感想会での検討要求内容については、自転車のまち茅ヶ崎が感じられない。2段階右折の待機場所がない交差点が多い。路

面表示のカラーが薄い。鉄砲道の路面表示幅員が中途半端。本ツーリングを繰り返してやってほしいなどの意見がありました。

サイクル研の見解としては、市民を対象に、歴史・観光・道路事情などをテーマに、楽しさを考慮してツーリングを継続するというのが見解です。

続いて、第2回散歩ツーリング。目的、人も自転車も移動しやすい環境か？“感じて見よう”茅ヶ崎市自転車走行空間の整備事業の対象路線を走って、改善点を確認する。

開催日が2018年3月25日日曜日。参加人数15名。募集対象、これまでサイクル研主催行事に参加された方。ルート、茅ヶ崎中央通り、鶴嶺通り、産業道路、柳島スポーツ公園、鉄砲道、高砂コミセン。

少し加えますけれども、茅ヶ崎中央通りには自転車レーンを用意されています。鶴嶺通りは一部矢羽根が出ております。産業道路から柳島スポーツ公園から鉄砲道を入れてですね。

成果としては、茅ヶ崎市の自転車走行空間の整備状況を認識していただき、これに基づく実走体験で十分認識いただいたので、次に走行ルートを変えての面の拡大を進める必要が感じました。

これが走ったところの地図です。このような形で、途中、途中で問題点について話しております。

このような形ですね。走っています。

矢羽根というのが、上から下のところの真ん中のところのあれが矢羽根です。上のところのブルーの面に舗装されているのが自転車通行帯。いわゆる自転車レーンです。

その中で問題点。あなたならここをどう通りますか。産業道路のJRガード下。このような狭いところ。これをどう通るのか。本来、自転車は車道を走るわけですから、車道を走れば問題ないんですけども、車道が怖いという方にとっては、このところの道路を自転車に乗って走ってしまったら、歩行者の目に留まってしまいます。非常に大きな問題があるんですね。

ツーリング後の参加者との意見交換会での感想などですけれども、国道1号と駅前通りの交差点の自転車走行についてとか、円蔵交差点の右折走行の迷い、鶴嶺通り全線車道走行の危険、やむなく自転車の歩道通行の実態、トンネルの必要性。産業道路のJRガード下の自転車走行をどのように誘導するか、先ほどのところ。それから、車道から歩道への法面形状で危険を実感。自転車ナビ、矢羽根の早期整備を危険箇所選定で欠陥。

サイクル研の見解としては、自転車走行環境改善に視点を持つ行政各種市民団体、市会議員等を対象に、実体験をしてもらうツーリングを継続するということです。

次は、自転車の茅ヶ崎の“あす”を語ろうというところです。自転車のまち茅ヶ崎の“あす”を語ろう会。平日の10月6日だったにもかかわらず、参加人員53名。うちケースワーカーが、まちぢから協議会4名、老人会1名、市職員6名、推進員2名、一般市民31名、サイクル研9名で行いました。

これが準備風景です。ここに、その前に、茅ヶ崎市の自転車まちづくりの目的と対象というのがあります。高齢化社会では、安心して歩いて暮らせるまちづくりがキーワード。

これが茅ヶ崎市の発表で、茅ヶ崎市の発表の中で、茅ヶ崎市の交通分断率は23%で、県内1位であるということ。これがそのときの風景です。

語ろう会を終わっての総合的感想。自転車走行環境改善への国政の取り組みがわかりやすく説明され、また、茅ヶ崎市の取り組みの内容も理解できた。参加者から、今後も続けるべき52%、よかった25%、未回答13%のアンケートをいただきました。

こういうふうなことで飛ばします。

最後のところにいきます。今、自転車活用推進本部で、1億人の自転車のグループサイクルジャパン、1億人の自転車の普及が始まっておりまして、自転車活用推進計画のパブコメが終わりまして、今国会のときに閣議決定で国の自転車活用推進計画が発表されます。

以上です。どうもありがとうございました。（拍手）

○大江委員長

これはことしももう既に続けてやっていたらっしゃいますか。

○水島委員

30年度ですか。

○大江委員長

はい。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

今年度は、ことしやる計画というのは、今、考え中で、2度か3度ほどやろうということで、今、例えば、自転車環境をやりながらも、僕たちは「潮風散歩ツーリング」という言い方でやるんですけども、それは散歩であるように、自転車のルールだけでなく、楽しく行こうということで、今考えられているのは、10月ぐらいに里山のほうに柿をもぎに行こう。それは自転車を使いながら、里山のほうへ持っていかうとか、それから、11月に、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の企画イベントが南湖公民館で行われるんですね。それに合わせて、南湖、柳島、あの地域のところを周りながら、同じようなことをやってみようと。もちろん、今回やったのは自転車のルールの形が多かったんですけども、もっと楽しみながら。私たち、サイクリストという視点ではなくて、どちらかというと生活者の視点ということでやっておりますので。

○大江委員長

ありがとうございます。

○草野委員

ヒヤリハット箇所の分析というのが載っていたんですが、今、市内には何箇所ぐらいヒヤリハットの箇所はありますでしょうか。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

ヒヤリハットは、今回、げんき基金のほうで申請したんですけれども、外れて、そこまでのところは、今回のあれではきちっとはしておりません。

○草野委員

わかりました。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

ヒヤリハットをやる場合でも、かなり手間のかかるものとか、事故箇所を含めた総合的なものが必要だと思っております。

○草野委員

現時点で幾つか載っているのかなと思ったんですけれども、そうじゃないわけですね。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

それは、具体的な数字というのは載っていません。

○草野委員

わかりました。ありがとうございます。

○水島委員

茅ヶ崎は平坦なので、非常に自転車がなくて便利なものですから、今回はモデル的なコースを2つぐらいやっていただいたんですが、継続的にやっていただくことで非常に充実したものになっていくなという感想を1つ持ちました。

あともう一つは、ツーリング的なものではなくて、反対に、朝晩、非常にたくさんの自転車が集中して、駅とかに向かっていく風景を大変よく見ます。だから、沿道のヒヤリハットじゃないですが、危険な部分ですが、その延長上といいますか、将来的には違った視点の取り組みといいますか、そういうご意見をいただいてもありがたいかなと思いついて伺っておりました。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

その辺については、実はいろいろ考えていることはあるんです。そのこのところの朝夕の自転車が多い中で目立つのは、多分ルールをちゃんとやっていないから。ここについては、例えば、駅の周りについては、もちろんルールの問題もありますけれども、構造的な問題で、そうせざるを得ないところもあるかなというのが、問題点として考えています。それは具体的に言うことはできませんけれども。

○椎野委員

いいことをやっていらっしゃるのであれなんですけれども、先ほどお話を伺っていたら、自分たちはサイクリングするという視点でなくて、生活者の中の視点でやっていますよと。これはすごくいいことだなと思っているんです。今、これから省エネのことがありますから、できればご自分の力で健康にもなるし、自転車で行きましょうというのを運動させていただくと。これでずっとおやりになって、アンケートの集計結果がありますけれども、その中で、行政への検討依頼事項というのがあるんですけれども、これは行政に申請して、私たちはこういう活動をして、こういう結果が出たんですけれども、これを改善してほしいということをお願いしたんですか。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

まだそこまではやっていないです。口頭ではしてありますけれども。

○椎野委員

せっかくアンケートまでとって実績もあって、こういうことが出たので、それを行政に反映して、少しでも、この中の1つでも2つでも改善してもらうために、いい、安心して乗れるという、ぜひその辺をお願いしたいなと思っております。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

ありがとうございます。

○草野委員

最近では電動自転車はかなり多くなってきていると思うんですが、一般的な自転車でのルールと、電動自転車によつてのルールとか、その辺の違い等で何か気をつけること。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

ルールの違いはないです。今、電動自転車は、日本で認められているのは、時速24キロでとまるんですね。だんだんスピードが上がってくるに従って、アシストするのが落ちてきます。日本の場合、自転車が歩道を通っていいというのが昭和45年の法改正で出てきていますので、ですから、よく皆さんが「ママチャリ」と言われますよね。ママチャリの規

格が出てきたのはなぜかという、それまで昭和45年の法律改正までは、全て車道だったんです。そのときに、モータリゼーションで車がふえちゃったので、自転車は申しわけないけれどもということで、歩道に乗せてしまったんですね。これは結構国会でうまく通るかどうかというので、みんな心配していたぐらいのものなんです。皆さん当たり前歩道のことを思っていますけれども、そういう歴史があるんです。その中で、自転車と電動アシストの差はありません。

あと、自転車のルールで簡単にわかりやすく言いますと、原付自転車と同じと思ってください。原動機自転車です。規則的に。違うところはどこが一番わかりやすく違うかという、原動機自転車は、時速30キロ制限があるんです。自転車の場合は、道路の法定速度までなんです。そこの違いがあるのは、ちょっと頭に入れておいていただければと思います。

それから、この場を借りまして、皆さん自転車に乗られると思うんですが、歩道を自転車で渡るとき、皆さんはどうされていますか。歩道を自転車で渡るとき、どのようにされていますか。

○大江委員長

ごめんなさい。それは答えたいところなんですけれども、ほかに質問があれば、こちらの質問を優先させていただいて。ほかにあれば先に。

私、警察の交通安全の問題と非常に絡んでくるので、警察と危ない箇所の確認をおやりになったらいいんじゃないかと思うんですが、その方面は何か接触はしていますか。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

これからしたいと思っています。

○事務局

では、6分。ありがとうございます。

○大江委員長

引いて渡るとというのが正しい。

○原（ちがさきサイクルライフ研究会）

そうです。引いて渡るんです。歩行者ですのでね。この前、イオンでそのキャンペーンでやっておりました。

○大江委員長

どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

では、お願いします。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

事業名「キレイな姿勢でちがさき楽々ウォーキング」を行った湘南地区ネットの亘です。よろしく願いいたします。

実施した内容は、ポールを使った歩行。ノルディックウォーキングの体験講習会です。実施した団体は、一般社団法人神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネットと言います。私たちは、日ごろから中高年の生きがいと健康づくり、仲間づくりを発信していますので、それに沿ったことをしたいと考えて、この事業を行いました。

この事業を通じて、市民の皆様がいかに健康に留意しているかということがよくわかりました。体験講習会に参加した人のアンケートからも、ノルディックウォーキングは初めてという方が多数いましたが、ある程度の理解が得られ、90%の人がこれからも続けていきたいということでした。

私たちは、昨年4月から準備、スタートして、5月の体験講習会を経て、21名の会員、6名のスタッフとともに、6月から正式に湘南茅ヶ崎ノルディックウォーキング同好会をスタートさせました。

2回目の9月の体験講習会が終わって、5月と合わせて36名の会員の方の参加を得て、本年5月現在、会員・スタッフ合わせて44名の規模となっております。

同好会では、月2回活動しています。第3金曜日は、中央公園を中心に基本練習と歩行。第4金曜日は、これまでに里山公園、千ノ川沿いに旧相模川橋脚、それから、会館のサイクリング道路がありますね。それから、市内の香川のほうの史跡めぐりなどをノルディックウォーキングしています。

昨年の6月からことし5月まで、定例会を19回実施し、延べ571名が参加しています。

このような活動につながっていったのは、げんき基金で採択されて、講習会開催のチラシを市の掲示板とか各公民館、コミュニティセンターに置いたり、皆さん同じように、2度にわたって広報へ掲載していただいたり、あと、口コミ等で募集人員を上回る応募者がありました。ノルディックウォーキングへの関心がとても高まったからだと思っております。

ここに、ちょっと遠くて見にくいかと思いますが、講習会を開催したときの写真を並べてみました。皆さんの真剣な表情が伺えると思います。たくさん笑顔もありました。

3日間という講習会の内容も、順を追ってわかりやすかったのではないのでしょうか。特に運動前のウォーミングアップ。運動後のクールダウンを通して、ストレッチの大切さも実感していただきました。

では、ポールを使って歩いていただきます。

○白石（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

歩くというよりは、こういうポーズ。これは、私どものノルディックウォーキングのスタイルです。ポールをついたときに、ぐっと後ろへ反るように押し出すんです。このことによって、肩甲骨の筋肉が動くということで、それと、歩幅が当然広くなりますので、その2つがかなり大きな特徴で、私の体験を申しますと、3年前に市が進めているフレールチェックのプログラムがございしますが、そのプログラムで得た、自分の年とともに衰弱している筋肉とか、骨密度といったものを改善する方策としてノルディックウォーキングを取り入れたわけです。これを3年間続けまして、全体の筋肉量が2.3キロふえました。それで、体幹ですよ。この筋肉も0.6キロですか。あと、手足の筋肉量が0.5キログラムぐらいふえまして、これは最近のフレールチェックで測ったものです。そんなことで、ノルディックウォーキングというのは、非常に私は期待しております。期待のことでインストラクターの資格も取ったんです。いろいろと力を入れてやっております。よろしくお願いいたします。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

今、白石さんが言ったように、全身運動になります。普通のウォーキングと違って、全身運動になって、姿勢もよくなります。消費エネルギーが20%アップしますし、歩幅も大きくなって、歩く速度も速くなります。認知症予防にもなっていると思います。

今、お話がありましたように、現在推進中の市のフレール予防チェックでは、健康講座情報つづりにノルディックウォーキングの同好会のお知らせを載せています。フレールにならないためには、しっかり食べて、しっかり動いて、みんなで楽しくと言われていますが、まさにノルディックウォーキングがその3つを満たしていると思っています。これからもこのフレール、虚弱という言葉も認識して、中高年の心の健康感と体の筋肉増強、健康増進、仲間づくりに貢献したいとスタッフ一同頑張っております。

それと、会員の中から、今年度スタッフのほうに入ってきてくださっている方が2名出てきました。こういう感じでやっております。

すいません、ちょっと別な話、フレールに関連していることですが、6月6日のNHKの『ためしてガッテン』で、市のほうでやっているフレールの映像がちょっと流れますので、ぜひ皆さん観てください。よろしくお願いいたします。（拍手）

○大江委員長

どうぞ。

○水島委員

茅ヶ崎は、朝晩ジョギングとか散歩されている方が非常に多いんですね。散歩よりもう

少しジョギングの間ぐらいで、スポーツと呼べると思うんですけども、いい取り組みだなと思いながら見ていたんですが、反対に、やり始めるきっかけづくりというのは、そこにいくのが、ハードルじゃないですが、ちょっとあるんですけども、中央公園のところしか今のところ接する機会はないのでしょうか。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

そうですね。第3金曜日、必ず中央公園でやっております。そこに見に来ていただければ。

○水島委員

最初、フリーの状態で行っても教えていただけるような。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

それは大丈夫です。インストラクターの方が現在8名おりますので、1人ぐらいついて、最初からやっていただけると思います。

○白石（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

ポールもお貸しできます。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

前もってご連絡いただければ、ポールを持って。

○水島委員

最近、40名とかおっしゃっていたんですが、街中で時々ポールを持って歩いている方をお見かけすることが時々あるんですね。ですから、結構関心のある方がいらっしゃるのかなと思いながら見ていましたので、ぜひよろしく願いいたします。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

ありがとうございます。

○草野委員

私も5年ほど前に寒川で講習を受けたことがあるんですけども、その当時はまだそんなに盛り上がっていなかったのが、それを茅ヶ崎の中でこうやっているとちょっと浮いちゃうかなという感じがしていたんですよ。今聞いていると、見ていると、もうこの時代、この時期だったら、どんどんふえていっても違和感がないような感じがしますよね。その一つとしては、茅ヶ崎市にもスポーツ推進員というのが約100人いるんですけども、そ

ういう人たちへの実技研修とか、そういうのも提案すると、さらに広がるような気がしますので、スポーツ健康課だったか、市に窓口がありますので、そこに声かけするのも一つだと思います。私は、寒川でそういう研修を受けましたから。ありがとうございます。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

寒川のほうでも各公民館でやりたいというご意見を伺っていて、もしかしたらやるかもしれません。

○草野委員

ありがとうございます。

○椎野委員

健康的でいいというので、筋力がついたとあって、本当にお元気そうなので素晴らしいんですけども、アンケートの感想の中に、ノルディックウォーキングに参加して、具体的にどういうことに役に立つのかねとかクェスチョンマークで書いてあるんですが、今それはお話しして体験していただいたのでわかったんですけども、参加されている方がこういうふうに、自分はこうやって参加したんですけども、何に効くんだろうとまだ不思議に思っている方がいるようですので、そういう説明をいつもしてあげて、こんなにいいんだよということやっていただければいいのかなということ。

これだけ、健康にいいということで、認知症にも効きますよとおっしゃっていましたが、これから高齢社会ですから、みんなが元気で楽しく暮らせるように、そのためにはまず足を鍛えてきちんとやりましょうということで、参加してくださる人をふやすということが大事ですね。そのために、先ほどお話も出ていましたけれども、周知の方法をどうなさるか、その辺だけまた今お考えだと思いますけれども、これからまたそれをやるのには、実質的にその辺を着実に考えながらやっていただけるといいのかなと思っています。お願いいたします。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

はい。

○大江委員長

これは歩くときに何人ぐらいのグループまで。あまり多いと危険だったりしますよね。

○亘（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

今、一応44名なんですが、常時来られる方というのが30名から35名ぐらいなんですね。私たち、先頭、中間、最後というふうにインストラクターの人が間に入って、見ながら歩

いていますので、今まで事故とかそういうことはなく過ごしてきております。十分にその辺は気をつけて。

○白石（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

基本的に小集団活動として私どもは6名ぐらい、1人のインストラクター。それで大体四十数名が今のところは、これから人数をふやすためには、インストラクターをふやしていくということが大事だと思います。

○水島委員

年代が60代、70代の中に80代とかとあるんですが、それぞれの体力とか健康状態も違いがあると思うんですが、メニュー的に少し違うような形なのか、一律でやるんですか。

○亙（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

全員やるということですね。中央公園でやるときには、ちょっと遅いグループと言っては悪いんですけども、歩く速度もちょっとずれてくるときがありますので、ゆっくり組と速い組というふうにして、たまに分けて園内を歩いたりはしております。外へ行くときは、休憩をなるべくとるようにして、合わせるようにしてやっております。

○水島委員

集まっているとき以外は、個人、個人は普段、家の付近とかで自分のペースで歩いているというイメージですよ。

○亙（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

やっってくださいとは言っているんですけども、なかなか1人ではやりにくいという方が多いんですよ。だから、皆さんと一緒にやると楽しいと言って来ていただいています。

○水島委員

わかりました。

○大江委員長

僕も同じことから。ウォーキングとかランニングとかは、大体1人でやる人が多いですよ。そうではないんですね。一緒のほうがやりやすいという。

○亙（（社）神奈川健康生きがづくりアドバイザー協議会湘南地区ネット）

そうですね。楽しくやるのが続けられるコツかなということ。

○大江委員長

それでは、ありがとうございました。（拍手）

○事務局

では、お願いします。

○清水（湘南SHOW点）

湘南SHOW点の代表の清水です。よろしくお願ひいたします。

当団体は、「地元茅ヶ崎をアートで盛り上げる」をコンセプトに、アートイベントやワークショップの開催を行っておりますが、今までにげんき基金の助成を4回いただきまして、とても大きく成長させていただいております。

例えば、こんな格好をしていますけれども、本日は、茅ヶ崎市との共催で行わせていただいた「音貞オッペケ祭」でした。きょうのお配りしたパンフレットを皆様にも見ていただいておりますけれども、音二郎版ハムレットの私はオフィーリア役で、終演後すぐに大急ぎで来たので、こんな格好なんですけれども、申しわけございません。

世界的に活躍した近代演劇の礎、川上音二郎と貞奴夫妻が、茅ヶ崎の高砂緑地に住んでいたこと、日本で初めてシェークスピアの全幕上演を行ったことなどをもっと多くの方々に知ってほしいと、2012年から2014年までの3年間、げんき基金の助成事業として主催し、音二郎版の「オセロ」と「ベニスの商人」の復刻上演を行ってきました。

その活動を経て、現在は「音貞オッペケ祭」実行委員会を発足させて、「オッペケ祭」を2014年から毎年開催しております。私自身は音楽が本業なので、シェークスピア劇の音楽を全て担当しています。こうした形で自分が育ってきた茅ヶ崎に少しでも恩返しができていることをうれしく思っています。

そして、昨年度のげんき基金助成事業としては、「ホノルル・世界へ発信！「茅ヶ崎・赤とんぼ音頭」「浜降サンバ」」と題して、茅ヶ崎の魅力を伝えるプロモーションビデオ制作に取り組みました。まずは、その完成した映像を観ていただきたいと思います。

（プロモーションビデオ）

茅ヶ崎で「赤とんぼ」が作曲されたこと。作曲家山田耕筰が茅ヶ崎南湖に住み、茅ヶ崎の風土にインスパイアされて、たくさんの同様に作曲していることを伝えたいと制作したプロモーションビデオです。

このように、茅ヶ崎の美しい四季をたくさん盛り込んでいます。そして、山田耕筰が住んでいた南湖の銭湯や商店会にご協力いただきまして、2020年東京オリンピック・パラリンピックも迫っておりますので、アーティスティックスイミング、シンクロナイズドスイミングを取り入れたり、このように南湖の銭湯で「シンフロ」というので、大分で温泉でやっておりますけれども、それに乗っからせていただいて、お風呂の中でシンクロを披露するという場面もあります。ここで、山田耕筰も住んでいた場所から近いので、耕作さん

も来たかもしれないなんていう会話から始まります。

そして、姉妹都市であるホノルルには、私は文化団体協議会として視察に行きました。祭囃子の須田さんとともに、茅ヶ崎オリジナルの盆踊りをつくりたい、いつかホノルルで踊りたいという目標ができて、須田さんのご協力での事業を進めてまいりました。

先ほどのピアノのメロディをジャズ風にアレンジしたものですけれども、ここから「赤とんぼ音頭」を。

いろいろな場所で、いろいろな方に踊っていただいております。

須田さんのおかげで、「なんでも夜市」や菱沼八王子神社での撮影が実現しました。こちらは八王子神社の盆踊り大会です。たくさんの方にご出演いただくことができました。

きょうは、先ほどシンクロナイズド、お風呂の中でやった、なんちゃってシンクロを振り付けてくださって、ご出演もしてくださった、シンクロナイズドスイミングの普及に長年取り組まれ、ご自身もシンクロの日本選手権で4連覇を果たしている宮崎美保さんも湘南SHOW点のメンバーになってくださいましたので、一言お願いいたします。

○宮崎（湘南SHOW点）

SHOW点の仲間に入れていただいて、すばらしいこういうことに一緒に活動させていただいて、大変ありがとうございます。私の友達も急遽茅ヶ崎のために駆けつけてくれました。泳いでくれました。

○清水（湘南SHOW点）

そのシーンはもうちょっと後になってしまうんですけれども、こういった形で、このプロモーションビデオをつくったことによって、さまざまな商店会、また幼稚園、団体などから、いろいろ思いがけずいただくことができ、本当に活動の幅が広がりました。

私は、幼稚園を撮影させていただきました。実際に流していただきながら、踊ってくださいました。

こちら、障害者さんとのコンサートを依頼されて、そのときの模様も入っています。

こちらが南湖の商店会の皆さんです。

このような感じで「赤とんぼ音頭」のほうはつくらせていただきました。

では、もう一方の「浜降サンバ」のほうに移りたいと思います。

浜降サンバのほうは、寒川神社から浜降祭がスタートするというので、寒川神社の参拝シーンから始まります。そして、その後に浜降祭の「どっこい、どっこい」の掛け声とか、浜降祭をテーマにした歌詞、茅ヶ崎甚句なども取り入れて、さらにサンバの楽しいリズムで、本当に国際的に、どんな国でも、どんな年齢の人でもノリノリになれるような曲をつくっております。

こちらもやはり障害者施設のコンサートや出前授業などで活用しているんですけれども、参加型で、誰でも簡単な手拍子で入れる音楽なので、すごく盛り上がってご好評いただく

ことができています。

このように寒川から始まるんですけれども。

南湖のほうですね。浜降祭の様子も去年撮影して、このように盛り込んでおります。

また、こちらのほうは、さっきちょっと違うのは、茅ヶ崎在住のプロの脚本家や監督に依頼して制作しました。茅ヶ崎で映画を撮りたいと前からおっしゃっていたお2人なので、今後の映画制作の展開を見据えて、茅ヶ崎市内でオーディションを行って、そのオーディションを経た市民の皆様と撮影を行いました。ですので、今回、すごく勉強になりましたので、この経験を生かして、茅ヶ崎での長編映画もぜひ実現させたいと思っています。

このプロモーションビデオの活用ですけれども、今年度に入ってから既に上映会を2度開催し、大岡祭のパレードや湘南祭でもこの2曲をパフォーマンスしたりしております。

また、こちら、配らせていただきましたが、夏休みには「茅ヶ崎・赤とんぼ音頭夏まつり」と題して、イオンスタイルさんのイベントスペースで1週間のプロモーションビデオ上映とステージ発表を予定しております。

今後も市民の皆様とともに楽しく茅ヶ崎の魅力を発信しながら、盛り上げていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。（拍手）

○水島委員

ようやくでき上がって、いろいろなところで紹介をいただいているんですけれども、いろいろな市民の方になじんでいただくには、もう少し細かい地域の単位で広められるといいと思うんですが、それぞれの地域で盆踊りとかいろいろやっているじゃないですか。お話に対して、聞き逃していたら申しわけないんですが、それぞれの地域でいろいろ知っていただくための何か工夫とかというのは、今後、何か特にまた考えておられますか。

○清水（湘南SHOW点）

また新作をつくるということ。

○水島委員

いいえ、できたものをさらに。

○清水（湘南SHOW点）

これをいろいろな盆踊り大会でやるということですか。

○水島委員

そういうのはあまり考えていないですか。

○清水（湘南SHOW点）

考えています。できるだけ、ワークショップに参加してくれた方が、自分の自治会、自治体に言ってもいいですと言ってくれたり、今、南湖のほうで進めていただいています。

○水島委員

出てきたのは菱沼の盆踊りと、今のところと、まだ少し限定なのかなと思ったので、せっかくなのでいただいているし、曲自体のベースがなじみのある曲なので、わりと聴きやすいのかなと思ったので。全地区、たしか盆踊りは細かくやっていたような気がするので、紹介いただいてもいいのかなと思いつつ聞いていました。

○清水（湘南SHOW点）

ありがとうございます。ぜひ実現させたいです。

○大江委員長

これは、できたものを収益が上がるようなことというのはあり得るんですか。

○清水（湘南SHOW点）

あり得ない。今はCDも無料で配布しているので。

○大江委員長

収益が上がれば、かつて、げんき基金でいただいたお金をもとにして、歌のグループだったかな、そこで参加費みたいなものを集めたり、それをまたげんき基金に寄附して下さったりとかあるので、そういう形でお金が回るのもいいかなと思うんですけども。

○清水（湘南SHOW点）

今、ワークショップをするときには、一応、皆様にワンコイン、資料代としていただいているんですけども、CDもちゃんとジャケットとかもデザインして、ちょっと安めの販売というのもいいのかもしれない。今は無料で配ってしまっていますが。ありがとうございます。

○大江委員長

これでハワイで。

○清水（湘南SHOW点）

踊りたい。

○大江委員長

いやいや、そこに向けてこれからやっていくんですか。

○清水（湘南SHOW点）

そうですね。須田さんと一緒に文化団体協議会の視察会で行ったときに、オリジナルのを持ってきさえすれば、そこで太鼓とか叩いたり、踊る時間をとってくれるということは伺っているので、みんなで行って踊りたいなというのは進めたいなと思っています。

○椎野委員

「赤とんぼ」でやるんですか。

○清水（湘南SHOW点）

「赤とんぼ」で茅ヶ崎のオリジナル。

○椎野委員

炭坑節の振りで。

○清水（湘南SHOW点）

そうですね。

○椎野委員

誰でもできますものね。

○清水（湘南SHOW点）

そうなんですよ。ハワイでは。

○水島委員

ホノルルって盆踊りをやっているんですよね。

○清水（湘南SHOW点）

ホノルルは1,000人単位で盛り上がっていて、3カ月もずっと毎週末。

○水島委員

大規模にやっているのを見たことがあります。

○清水（湘南SHOW点）

みんなわざわざ日本とか、あるいは徳島県人会とか、そういうのが集まって、自分のオ

リジナルだけをやるんですね。だから、自分のオリジナルじゃないところでいきなり太鼓を叩こうとか歌おうというのは無理なので、自分の地元のオリジナルがありさえすればいいよと言ってくださっているの、実現したいなと思っています。

○椎野委員

いろいろ夢はあると思うんですけども、これを今後どのように継続しながら展開させていくかという、何かプログラムみたいなものはありますか。

○清水（湘南SHOW点）

これを頑張って、続けていこうと思っているんですけども、実際、参加してくれた方がすごく喜んで、特に子どもにすごく受けるというか、喜んで踊ってくれるので、どんどん踊ってくれる人が広まりそうな予感がします。私はことしから「まなびの講師」に登録しましたので、それもあって、このランチでもこのようにお話が進んだり、イオンスタイルは自分でやっていたんですけども、誰もが通る商業施設とかのイベントをどんどんやっていって、そこで、まだ本当に「赤とんぼ」をつくられたというのを隣の市とかになっちゃうと全然知らないし、茅ヶ崎の方でも知らないの、できれば、隣の藤沢市が盆踊りをやっているの、そこにも、今、売り込みをかけているんですけども、何とか実現させたいなと思っています。

○椎野委員

障害者の方も健常者も何も隔たりがなく、みんなで踊れるような。

○清水（湘南SHOW点）

そうなんです。つい先月も翔の会さんで100人ぐらいの方と一緒にコンサートをしてきたんですけども、サンバと盆踊りになるとみんなフロアに出てくれて、本当に元気に踊ってくれるので、実はこの映像をつくっているといったら、翔の会のスタッフさんが、翔の会でもつくりたいと言ってくださったので、翔の会さんとのコラボの映画とかプロモーションビデオが実現しそうな感じです。

○椎野委員

いいですね。頑張ってくださいね。

○清水（湘南SHOW点）

ありがとうございます。

○大江委員長

今までいろいろな形で茅ヶ崎市の貢献というのはやっていらっしゃるし、これもその意味は大体わかるんですけども、あえてもう一度伺うと、これを通しての茅ヶ崎市に対する貢献というか、茅ヶ崎市はどのようなプラス面があるんでしょうか。要するに、これ自体の活動はおもしろいんだけど、これを茅ヶ崎市のげんき基金をいただいてつくって広めていくということは、例えば、ハワイですと、ホノルルに行ってこれを踊っても、茅ヶ崎市という名前は出てこないような感じもするんですけども、そうでもないんですか。

○清水（湘南SHOW点）

つまり、行ったときに姉妹都市といっても、実は向こうの方は姉妹都市はいっぱいあり過ぎて、茅ヶ崎を知ってくれていなくて、でも、「赤とんぼ」のメロディは知っていたんです。だから、「赤とんぼ」は茅ヶ崎でつくられたんだとアピールすることで茅ヶ崎を世界中に知っていただく。ホノルルにももちろん知っていただきたいですし。

○椎野委員

そういうつながりね。

○清水（湘南SHOW点）

あとは、音楽が本業なので、アートとか音楽に皆さんに身近に親しんでいただきながら、かつ、茅ヶ崎の魅力を、周りにいる茅ヶ崎だけじゃなく、全国、世界まで発信していきたいというのが目標です。

○大江委員長

では、ちょうど時間ですね。どうもありがとうございました。（拍手）

○清水（湘南SHOW点）

ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

この後、この会場で全体の意見交換を行います。各団体の皆様、ご来場の皆様は、こちらの会場をなるべく前のほうに詰めていただいて、しばらくお待ちいただければと思います。よろしくお祈りします。

A、Bグループに分かれてのご議論ありがとうございました。

続きまして、全体の意見交換に入りたいと思います。大江委員長よろしくお祈りします。

○大江委員長

皆様、お疲れだと思いますが、もう少しお時間をいただければと思います。

全体を通して、いろいろな形の思いとかを持っていらっしゃると思うので、ここではげんき基金の助成事業全体に対して、あるいはそこに応募されて、きょう報告くださった方々の活動についてのご感想でも何でも結構でございますので、どうぞこれからのげんき基金にとって何か前向きの形で進めるような、そういう形でご意見をいただければと思っています。どなたからでも結構ですので、どうぞ発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

では、こっち側から少し発言などがあればと思いますが、いかがでしょうか。委員の方々でも、お聞きになった感想ぐらいから。じゃ、よろしくお願いします。

○宮崎（湘南SHOW点）

SHOW点です。私ももう高齢ですので、71歳ですので、人のことをやっている場合ではないんですけども、つくづく最近思うことは、メディアの力というのは本当に世界中に瞬時にして回って、いろいろな映像や何かは、本当に世界中に一瞬のうちに宣伝がきくということと、プロモーションビデオも宣伝するわけですけども、本当に茅ヶ崎に来なくなるなというような映像というのは非常に力があると感じました。各方面から情報が今入ってきています。

○大江委員長

Aグループのほうで湘南SHOW点さんの「赤とんぼ音頭」、盆踊りとサンバのプロモーションビデオのご紹介があって、Bグループの方は観ていらっしゃらないので、どこで観れるかというのを教えていただけますか。

○清水（湘南SHOW点）

ありがとうございます。You Tubeにアップしてありますので、「赤とんぼ音頭」あるいは「浜降サンバ」で検索していただければ、すぐに観られます。「赤とんぼ音頭」は3月の最後の31日にアップしたんですが、既に1,100回以上再生されていますので、ぜひご覧ください。茅ヶ崎に行きたくなる映像だとみんな言ってくさっています。

○大江委員長

あと、夏にイオンか何かでも。帰りがけにでもパンフレットをいただけるようにしたいと思います。

ほかはいかがでしょうか。

困ったときの伊藤さんですかね。伊藤さんお願いします。

○伊藤委員

Aグループは存じ上げないですけども、Bグループは、基本的に教育、子どもに対する支援、あるいは問題に対する取り組みがとて多くて、午前中ありました協働事業でもそうだったんですが、私は、少なくとも学校教育が、私が子どもであった半世紀以上前のころに比べて、すごい変わっているなという印象を受けました。そのために生じている問題が多々あるというふうに感じまして、子どもたちの問題よりは環境が変わっているということがとても多いと思うんですね。皆さんにお聞きしたいのは、Bグループの方も、Aグループの方も、簡単に改善できる。改善というふうに、善を使って。改良できる。改良もそうですね。簡単に換えられるところで、学校教育がどういうふうになると、もう少し皆さんの取り組みが軽減されるかとお考えになっているのでしょうか。さっきちょっと委員の間で防災倉庫の問題の、防災倉庫が学校にある場合、その鍵をどうやって手に入れるかという難しさについて笑い話をしていたんですが、そういう単純なことでも結構です。教えていただければと思います。

○大江委員長

学校……。

○伊藤委員

学校の現場が、いろいろな規制であるとか、昔はなかったような実態がどんどんふえていて。

○大江委員長

それをどうやったら換えられるか。

○伊藤委員

そうですね。どうやったら換えられるかということです。

○大江委員長

午前中、学習支援の話があつて、そのときに、非常に繊細な表現の仕方で、学校はもっと学校のことをやったほうがいい、そして、地域のことは地域でやるという。つまり、そのおっしゃっていた意味は、今、学校が地域に出ていかなきゃいけないというようなことで、学校の中が町内会と自治会との連携をとらなければいけないとか、非常に事務量がふえているという話を聞いたことがありまして、そういうことを含めておっしゃっているのかなという感じがしたんですけども、1つは、学校と地域の関係ということが今の伊藤さんのご質問の中にも入っているのかもしれないと思うんですけども、何か地域の側から学校を見ていて、学校がこういうふうになると、地域の側も地域の側として貢献できるんだ、こういうふうにあるんだと、そういう意味で学校にこう変わってほしいと

というようなことがあれば、伺いたいと思います。どうぞ。

○宮崎（湘南SHOW点）

何かありますかという、すぐ手を挙げる水泳の宮崎です。

私は学校問題に非常に興味がありまして、学校の先生がもっと自分の人生も楽しんでいるか、余裕があるか、そういうところが非常に今気になっているところです。先生自身が閉塞感があって、時間がなくて、知識の切り売りだけで目いっぱい。そうすると、先生が子どもを本当に好きだということを感じないとか、もっと先生にゆとりが出てくるといい。これももちろん日本のこの体制だと10年かかると思うんですけども、でも、いつかはやり始めないといけない。もっと先生も外へ出ていっていろいろなことを知る時間も必要ということ、世界中を歩いてきて感じます。

○大江委員長

ありがとうございます。

○長谷川（子ども未来塾）

教員をやっております、退職して5年目に入んですけども、物すごく学校のこと、きょう、Bグループに出たときに、皆さん、本当に子どもたちのことを考えて、地域でこういうふうにしていこうという発表が多くて、私としてはとてもうれしく思いました。

1つは、今、学校の教職員は言葉で言えないくらい忙しいです。私が40年以上前に教員をやっていたころに比べたら、はるかに量が多いです。さまざまなことがあります。子どもの問題、保護者との関わり、それから研修の多さ、それから勉強内容の量の多さ。今、子ども塾をやっているんですけども、そこに来る子たちは、3時半から始めても来れないんです。6時間授業をやっていると、4時に家に帰ってから来る。子どもたちも忙しいです。でも、これは教職員もきちんと、今までの概念を変えて、もっと地域にお願いと言っていかなければいけないなというのはしみじみ感じています。その辺が難しいんですが、私どもの塾はとてもよかったのが、自治会長さんが私たち教員を利用してくれたんです。だから、皆様、地域にいらっしゃる先生方、特にやめた人間は暇だと思いますので、その辺を利用していただくと、その辺からもしかしたら、学校の先生方を助けてあげられるノウハウが出てくるかもしれない。これは私の拙い考えですが、そう思っています。

先生方、若い先生方はすごく一生懸命やっています。昨日も室田小の運動会に行ったんですけども、非常にいい運動会で、先生方頑張っているなと思いました。だけれども、先生方も考え方を変えなければいけないなと思っています。

以上です。

○大江委員長

ありがとうございます。具体的な変わり方の一つのお話が出ました。
ほかはいかがでしょうか。

○益永（特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎）

益永と申します。

私は、大空小学校という大阪にある障害のあるお子さんもインクルーシブでどんどん受け入れている学校を見たんですけれども、先生が何でも責任を、地域も親も先生に責任があると押しつけない、思い込まない。地域の人ができることは地域が担うということをやっているのかなと思います。

それと、私は、子どもが小さいときに、藤沢の小学校に名取先生という方がおられて、外部から講師を呼んで、子どもに社会を教える。例えば、水俣の甘夏を売る人を呼んできて、なんで水俣病って生まれたの？というのをその方から聞くという授業をやって、そこに外部の人が授業参観に行けるんですけれども、その人からお金をとって、講師の方の謝金を賄うといったようなことを公立の小学校で行われていたもので、もっともっと地域の人がいろいろな形で協力したり、入り込んだり、先生に負担をかけないような工夫をされる仕組みになっているといいなと思いました。

○大江委員長

じゃ、どうぞ。

○亀田（トライ）

トライ代表の亀田と申します。いつもお世話になっております。

私も小学生、中学生を中心に、社会活動というか、スポーツとか実験などを通じて取り組んでいるんですけれども、学校というと、子どもたちは、保護者にとっても行かせやすい場所なんですね。どこかの公民館とかいうよりも、学校であればすごく行きなれているし、どんな状況かもわかる。子どもたちにとっても、どこに何があるか、そこに通っている小学生であればわかるので、すごく安心できる場所だと思います。

そういう意味では、今の学校もすごく協力いただいておりますけれども、地域と連携して、学校の施設というもの、場所を開放というか、使わせていただければ、小学生、中学生、あとは地域の人たちと一緒に活動ができ、よく地域につながりが薄れているとかというところの改善につながるのではないかと考えております。ぜひそういった公共の施設をうまく利用させていただければと思います。

○大江委員長

ありがとうございます。

どうぞお願いします。

○長谷川（子ども未来塾）

子ども未来塾を主宰しております長谷川と申します。元中学校教員です。女房が小学校教員です。

今、女房のほうから話がありましたけれども、私自身を振り返ってみまして、自分自身が教員になったころというのは、本当に楽でした。まず、保護者の方々が本当にかばってくださるんですね。私自身、梅田中学が最初だったんですけれども、そこに12年おりました。その間、お母様方、お父様方、それぞれ、いろいろなことがあったにもかかわらず、先生いいんだよ、一生懸命やったんだからというふうな動きがあったんですね。一生懸命やっているんだからいいんだよ、こういうところはこうやっていいじゃん、先生一生懸命やりたいと言ってやったことなんだから、それについては構わないよ。俺たちもバックアップできる場所はするよ。なんていう、地域の人が余裕というんでしょうか、または、保護者の余裕なんでしょうか。ちょっとわからないんですけれども、そういうものがあって、自分自身がその12年間で保護者の方々に育てられたという意識があります。その恩返しのようなことを今やっているんですけれども。

ところが、だんだんとちょっとした行き違い、対処を間違えると、それが非常に大きな問題に変わっていってしまう。中にはこういうこともありました。一度トラブルったことがあった。けれども、それを地域の方々が解決してくださるんですね。実はそんなことはないんだよ、これこれこういう意味で先生はこうしてくれたんだよということでおさまってしまった。多々ありました。今はなかなかないですね。おさまったかなと思うと、逆に周りの人たちがあおったりして、それで問題を大きくするということが実際にありました。

そんなことから、社会的に、社会で生活している方々にそれぞれ余裕がなくなってきたのかな。もう少し一歩引いて相手を見ようということが少なくなってきたのかな。つくづく思っています。

子どもを今教えていて思うことは、つい、子どもを教えているから、小学校、中学校の先生の協力を得ようとしがちですが、それだけはやりたくなかったんです。私たちのころには余裕がありました。昼休みに子どもたちと一緒にサッカーできました。今、やっている先生はいないと思います。小学校でもそうじゃないでしょうか。非常に追われていますね。何でそんなに追われるんでしょう。そんなに仕事がふえたんでしょうか。

つまり、教員というのは、勉強を教えるのが基本だと思っているんですね。その勉強の中に、もちろん社会性を身につけさせるための勉強も入っていると思います。学力もそうだと思います。でも、それがちゃんとできるような環境が今つくられていないな。教員にも、また周りの地域も余裕がなくなっているんじゃないかなと、今、つくづく思っています。

そんなところで、例えば、マーケットに行きますと、おばあさんが前で細かいのをクチュクチュ出しながら時間をとったりしていますね。そうすると、それをイライラする空気

が生まれる。早くしろよ。そんな思いが伝わってくるんですね。それくらい、今、社会は閉塞状況の中にいるのかな。その中に子どもを置くことはだめだな。つくづく思っているんですね。

じゃあ、そのためには、その子どもたちに余裕がある、そういう暮らしをさせなければいけないだろう。それにはまず何が必要かななんて考えながら、子どもの支援のほうをやっています。私自身、何が正しいかわかりませんが、ただ、今は閉塞状況の中にいることだけは間違いないなど。

それからあと、メディアリテラシーですね。これについても非常に短絡的に考える大人が多いですね。正しいか間違っているか。善か悪か。そんなことでしか考えられていない。もちろん、マスコミも非常にあおっていますから、それに乗ってしまうことが多いですね。でも、一歩退いて考えなければいけないこと。どのような材料でもって自分は考えなければいけないのか。こういう考えも、ああいう考えも、そういう考えもいろいろあるんだよと。その中で自分はこう考えますというふうに考えて意見を言っている人がいかに少ないかというのを感じています。

そういう中で、私たち大人が子どもに対してどのようにアプローチすべきなのか、これは一人一人が考えなければいけない問題なのかなと、今、つくづく思っております。

長くなりました。失礼しました。

○大江委員長

ありがとうございます。

どうぞ。

○宮崎（湘南SHOW点）

何度もすみません。きっと今ご意見を伺った方たちの中で、学校を開放したらもっといいのではないかと、地域を利用するという。そこには、いつもきっと、安全のこととリスクが背中合わせになっているんだと思うんですね。その辺を、みんな感じていることを具体的にしていくということがこれから大事だと思います。

○大江委員長

ありがとうございました。

そろそろ時間でございますので。じゃ、どうぞ。

○井上（ちがさき開智舎）

ちがさき開智舎の井上と申します。いろいろお世話になっております。ありがとうございます。

予算の問題なんですけど、予算書を出したら、その経費勧告に従った評価をしないと、返

していただきますよというのが現行のげんき基金の運用のように感じております。予算書を出す時期と事業を展開していく時期は時間的なずれがある。そうすると、おっしゃるように、公金ですから、我々もいただいたものはより有効のために使おうということを常々考えております。ですから、その間に寄附でいただけるものは寄附でいただく。予算に計上したものがその寄附金で間に合うということになれば、そのほかに振り分けて、そして使えるような自由性というか、事業の自由性、目的を外さなければ、そういうことももっと認めていただければ非常にありがたいと考えておりますので、どうかご検討される委員の皆様方にそのことをお願いしておきたいと考えています。

以上です。

○大江委員長

わかりました。承りました。

それでは、事務局のほうに。

どうもいろいろなご意見ありがとうございました。あえてまとめることはいたしません。最後に市長のほうからまとめてご講評があるということで、それに期待したいと思います。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、ここで服部市長より講評を申し上げます。よろしく申し上げます。

○服部市長

皆さん、長時間にわたりお疲れさまでした。ありがとうございます。

私も、各グループの発表を行き来しながら聞かせていただきました。この1年間、皆様方がいろいろな工夫をしながら、そしてまた、今のお話にもありましたけれども、この計画をつくったときから、さらにそれをもっと内容を濃いものに、そして、今の現状に合った形で取り組みを、幅を広げていこうというようなことを含めて、工夫をしながら1年間取り組んでいただいたこと、本当に肌身に感じました。本当にありがとうございます。

ことしの事業の中で、特にこの数年、だんだんふえてきたかなと思ったんですけども、子どもに関わるいろいろな取り組みを皆様方がよりいろいろなアイデアを使い、出し合いながら進めていただいていること、さらには、子育てに少し悩んだり、困ったりしている方に対しても、お子さんと一緒に関わりを持っていく、そんな取り組みも大切にいただいていると思います。

あと、もう一つは、人生100年、100歳時代というふうに言われている中で、高齢者の皆様方がまちの中で豊かさを感じ、そして健康で暮らしていただける、そういった環境をつくっていくことにつながっていくようなことも含めて、さまざまな取り組みを進めていただいたと思います。

そして、どのグループも共通しているのは、それを市民の目線で考え、そして行動につなげていただいているというのが、非常に大事な部分なのかなと感じています。まちの改善であったり、活性化であったり、そういったことを市民の視点で進めていただいた1年だったと思います。本当にありがとうございます。

さらには、最後、ちょっとお話がありましたけれども、まちを元気にしていくんだというような意味での取り組みも、これは市民の皆さんの発想のほうがはるかに幅が広いですし、本当にそのことにたけた方々のネットワークをつなげて、つなげて、つなぎまくって、そうした一つの成果にさせていただける。こうしたことも皆様方に展開をしていただいた部分だと思います。本当にありがとうございました。

今回、スタート支援の事業が10事業ということで圧倒的に多かったんですけども、ぜひこの支援を受けていただいた団体の皆様方に、活動をこれからさらに充実をしていただきながら、またまちの中で活躍をしていただきたいと思います。

きょう、午前中は協働推進事業の報告会がございました。これは、行政側から、また、市民の皆様から、こんなことを行政と一緒に連携してやることで、もっと幅が広がったまちを元気にしていく、まちを活性化していく、そういったことの事業はできるよねということ提案をしていただいて、そして事業をするパートナーを決めて、そのパートナーとの関係の中でいろいろと事業展開をしていただく。そういったことを「協働推進事業」という言い方をしているんですけども、その中でも、きょうは本当に行政と協力できてよかったという話も含めて、また、行政だけだったらできないだろうなという事業の報告もたくさんありました。ぜひ皆様が、今回、この制度を使っている団体の皆様が、これから、今度はそういった協働事業にも手を挙げたり、提案をしたりしていける、そんな団体に発展をしていただくことを大いに期待をしたいと思います。

きょう、最後の意見交換の中では、子どもたちが毎日過ごしている学校現場のことが数多くお話が出ました。まさに皆様方が発言していただいたとおりでと思います。でも、茅ヶ崎のまちは、こうやって実際に行動を始めていただいている方々が各地域の中に生まれて、それが発展をしつつある段階だと思います。そういった方々の力が一体化していければ、絶対このまちで暮らすお子さんたちがもう少し余裕を持って生活できる、そして、そういった場をつくっていただける学校現場に変わっていける、そんな力があるなど私は感じています。

学校のことだけではなくて、これからまちは大きく転換をしようとしています。ぜひ茅ヶ崎のまちが、皆様が豊かさを感じ、笑顔で生活できる、そして、皆さんが自分のことだけではなくて、ちょっと人のことも気にしながら生活できる、そんなまちとしてさらに発展できるように、今回のこの団体での活動を生かしていただきたいと思いますという思いでいっぱいです。

いろいろなことをお願いしてしまいましたけれども、行政もきょう皆さんから伺ったお話をいただきながら、そしてまた、この後、推進委員会の皆様方、午前中の報告、きょう

のこの報告を聞いていただいて、こんなことをすべきじゃないかということも行政側に提案をいただく予定でございます。そういったことも踏まえまして、これから行政運営に当たってまいりたいと思いますので、どうかよろしく申し上げます。

最後になりますが、各活動団体のこれからの充実した活動展開、そして発展をお祈りして、ご挨拶とさせていただきたいと思います。本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。（拍手）

○事務局

ありがとうございました。

最後に大江委員長からご挨拶申し上げます。

○大江委員長

もう市長のご挨拶、講評をいただいて、ちょうど締まったところなので、あまりつけ加えることはないんですけども、ここに座って少し考えてみたときに、私、もともといろいろな専門性を持っているんですけども、人口・家族研究というのが専門の一つで、家族の問題というのを結構研究もしているんですが、家族の状況というのはすごく変わってきているんですね。それも一様に変わっているというよりは、すごく差異を伴って変わっている。だから、家族的支援が十分な状態に置かれた人とそうじゃない人というのは、今は非常に混在している状況なんですね。「学校と地域」というふうに我々は簡単に言ってしまうんですけども、実は、家族が支えているということを前提にして、学校という制度も、あるいは地域という――地域という制度はありませんけれども、実際の地域の中で、自治会・町内会とか、そういう制度というのは動いているわけですね。

でも、その根本のところ非常に多様化してしまっているという部分に対して、今、多分皆さんがやっていらっしゃる活動は、学校を助けたり直接するというのではなくて、そういう家族的支援が弱くなっている他の人たちを支えているというところに向かっているんだと思うんですね。そこを意識することがすごく大事で、そこなしに制度のほうだけ考えても、あまりうまくいかないという感じを持っていますので、ぜひ皆さんが現場で発見していらっしゃる問題、課題というものに積極的に取り組んでくださることが、いい方向に向かう一番ベースにあると思っていますので、これからも皆さんのご活躍を大変期待しております。

きょうは長時間どうもありがとうございました。（拍手）

○事務局

以上をもちまして、平成29年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会を終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。（拍手）

委員長署名 大江 守之

委員署名 水島 修一
